

京都教区時報

第130号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

四旬節司教教書



宣教司牧評議会報告

～'88年1月31日～

新しい評議員が決まりました

<評議員>

グループ		氏名	所属
司 教		田 中 健 一	
司教総代理		Fr. 村上真理雄	
教区事務所		Fr. 斎木 嘉作	
1	京都北部	内 海 均	西舞鶴教会
2	〃	花 本 文 子	西舞鶴教会
3	〃	二 条 紀 彦	岩 滝 教 会
4	〃	○梅 原 馨	綾 部 教 会
5	京都南部	中 川 浩 永	西 隣 教 会
6	〃	○山 本 昌 子	高 野 教 会
7	〃	高 田 秀 八	幡 教 会
8	〃	○奥 本 裕 昭	小 山 教 会
9	〃	○山 下 良 三	伏 見 教 会
10	滋 賀	竹 中 久 雄	彦 根 教 会
11	〃	辻 村 正 枝	唐 崎 教 会
12	〃	吉 海 和 寿	草 津 教 会
13	〃	○篠 田 克 己	唐 崎 教 会
14	奈 良	山 家 康 翳	登 美 ケ 丘 教 会
15	〃	坂 口 素 子	西 大 和 教 会
16	〃	友 井 健 二	大 和 八 木 教 会
17	〃	○江 口 紀 吾	大 和 郡 山 教 会
18	三 重	北 川 保	松 阪 教 会
19	〃	一 森 順 子	上 野 教 会
20	〃	奥 野 亜 紀	鈴 鹿 教 会
21	〃	○宮 西 いづみ	津 教 会
22	司教座談会	○長谷川 貞 一	(河原町)
23	〃	岩 田 啓 子	(河原町)
24		○高 橋 朗 子	(河原町)
25	司 祭 团	○Fr. 浅 田 年 生	西 隣 教 会
26	〃	Fr. ヨゼフ・ルーニー	マ リ ス ト 会

グループ		氏名	所属
27	司 祭 团	Fr. 松 本 秀 友	西 院 教 会
28	修 女 連	○Sr. 安 井	ノートルダム 教育修道女会
29	〃	Sr. 出 島	ウイチタ 聖ヨゼフ会
30	〃	○Sr. 渡 邊	聖ドミニコ 女子修道会
31	諸 活 動	伊 達 よ し 江	子 羊 会
32	〃	大 八 木 明	正義と平和 京都協議会
33	〃	Fr. 越 知 健	希 望 の 家
34	広 報 担 当	○Fr. 村 上 透 磨	ヌヴェール会本部
35	教 理	Sr. 皆 福	ノートルダム 教育修道女会

備考◎常任委員長

○常任委員

<事務局>

グループ		氏名	所属
1	諸 活 動	Fr. 越 知 健	
2	教 区 時 報	Fr. 村 上 透 磨	
3	修 女 連	Sr. 渡 邊	
4	京 都 南 部	山 下 良 三	
5	〃	高 橋 朗 子	
6	〃	平 竹 洋 子	河 原 町 教 会





一九八八年 四旬節司教教書

さあ出かけよう共に喜びをもつて —ナイス以後の私たち

京都司教 ライムンド 田中 健一

みな一つになつて すばらしい協力の賜物

ナイスは終りましたがまだ終つたわけではありません。むしろ今始まつたのです。

青年達も燃え、御世話を下さつた方々も燃え、代表者達も燃えました。どうぞこの火を絶やさぬ様に、この芽を摘み取らぬ様に、このあつい思いが消えぬ様にと祈ります。やっぱり聖靈が吹き荒れた様に思えます。

この会議は成功した様に思えます。勿論、本当の成功はこれからのがかかります。にもかかわらず、有意義に終つた事は事実です。それには京都教区あげてのみなさんのご協力とご支援の賜物が大であつた事を感謝せざるを得ません。

まず会場を準備し、会議を支えて下さつたみなさんの献身的なお働きとあの熱氣を見ると、おもわず頭が下る思いもし、又そこに隠された宣教パワーと申しますか、そういうものが感じとられ、どれだけ力強く思つた事でしよう。

次に会議の代表者として参加下さつた13名の方々のご努力も大変なものがありました。教区内225グループからなる意見をまとめ、中間報告として提出し、更にそれを検討するなど、大きな労力を惜しまれませんでした。更に「信仰と生活の遊離について」の発題の作業等のため何度も合宿をくり返し、私達教区民の代表者としての役割をいたしました。

昨年は恵みに満ちた年でありました。私達は50周年を祝いつつ、教区創立以来受けたすべての恵みを思い起こし、感謝を捧げながら、信仰の見直しと刷新を目標に取り組みを始めました。8月には世界の宗教者達が一堂に会して、平和のために祈る、俗称比叡山宗教サミットが行われました。そして11月20日から23日、京都で第1回福音宣教推進全国会議（ナイス）が行われました。教区50周年を祝うその時に、この日本の教会の歴史上画期的な第1回全国会議が行われたことは大きなお恵みがありました。

聞いております。そしてその人々が、明日への開かれた教会作りを目指して集まり討議した会議に肌で触れ、その中から私達が予期しなかつた青年達の自發的な大会宣言文ができ上りました。その本文はカトリック新聞や時報にすでに記されておりましたのでここでは省略いたします。あの宣言文は会議が終る前晚、夜遅くまでかかってまとめられたものでありました。更に、Sさんのあの訴えが大きな感銘を与えた事もご存知でしょう。「眠っている人、覚きて下さい。私達も眠つてゐるかもしれません。でもおきるのがこわいのです。私達若者がこの日本のカトリック教会を背負つていくなんて、不安でたまりません。でもみなさんといつしよなら勇気を出して歩いていけそうな気がします。今こそ歩きだしましよう。」私にはこの言葉が非常に象徴的な意味を持つている様に思えてなりません。これは青年の気持ちと思われるかも知れませんが、私達キリスト者みなの思いではないかと思います。私はこの様な青年達に、すばらしい未来を感じ期待しております。

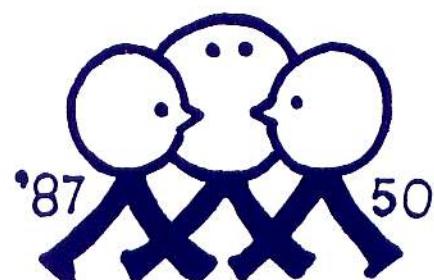
50周年の取組みとそのすばらしい成果についても一言感謝申し上げねばなりません。

行事、記念誌、資料委員会、そしてそれを総括する50周年実行委員会のみなさんは、「教区おいたち50周年の見直しと刷新」というテーマにそつとそれぞれの立場で取り組んで下さいました。記念誌委員会は将来への歩みの資料となる様なすばらしい記念誌「扉を開いて」を作つて下さいました。行事委員会は50周年行事についての立案計画をして下さり、創立記念日のためのすばらしい準備をして下さいました。資料委員会もいろいろな貴重な資料収集とそのめどをつけて下さいました。そしてそれを総括する実行委員会からは、この3つの委員会からすい上げた、明日の京都教区の福音宣教推進のための貴重な提案をまとめてこれを宣教司牧評に上申し、司牧評は私の諮問に基づいてこれら貴重な意見を検討下さっております。これもナイスからの提案、更

に司牧評からだされた3つの優先課題と合わせてその具体化のための検討をし始めて下さっております。

今回のナイス及び50周年の取り組みに際して宣教司牧評の果された役割の重大さを見のがすわけにはまいりません。しかしその陰にはこれを支えた各ブロックの信徒協、修女連、諸活動、司祭評とその背後にある全信徒、司祭のみな様のご協力を忘れることはできないのは言うまでもありません。

ビジョンの「教会組織の近代化」と言う要請から生れた宣教司牧評発足後、本格的に取り組んで下さったのは50周年の祝い方とビジョンの具現化でありました。しかし発足後間もなく、日本司教団の基本方針と優先課題が出るや否や、すぐにこれと取り組み始めて下さいり、ナイス準備委員会の種々の役割、代表者選定、会場準備委員会の選定、そして青年書記団の構想等、ナイスの準備の基本的な支えと助言を下さいました。又50周年の取り組みのため、テーマと実行委員会設立のための助言も下さいました。ナイスも50周年も、司牧評なしには十分実現することはなかつたであります。実を申しますと、第1回ナイスを京都で開催することには初め、50周年もあることですし、かなり消極的でした。しかし司牧評の受諾への答申があの様なすばらしい恵みの体験をさせていただきました。私は、ナイスが京都で開催された事は京都にとっても日本の教会にとってもとても大きな恵みであつたと信じております。開催地として確かに大変でした。しかし又それだけにお恵みも大きかったと思います。

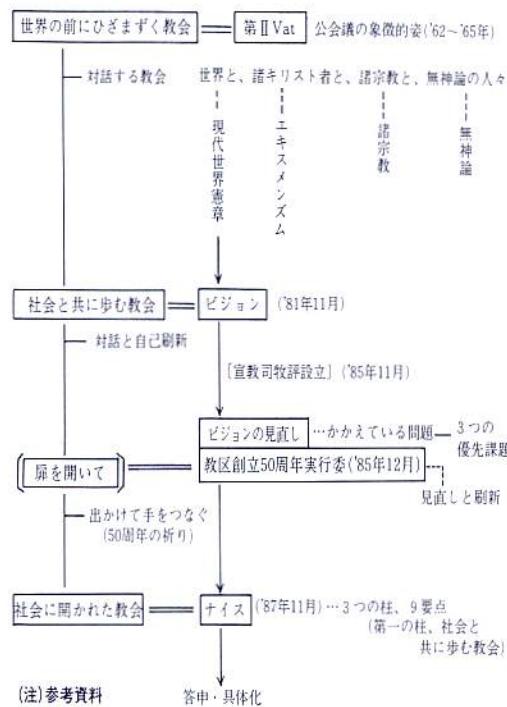


一つの流れの中で

教区ビジョン 50周年 ナイス

さて、ここでナイスをどう受けとめるか。又50周年から出された提案、又ビジョンの見直しとして司牧評でまとめて下さった3つの優先課題をどう受けとめるかについて一言述べねばなりません。

まず、ビジョンとナイスの課題は、内容としては殆んど同じである事に気付いて下さっていると思います。次に50周年と司牧評でまとめて下さった3つの優先課題 ①適正配置 ②青少年について ③バイブルのつまり(互いの交流伝達)は、実はビジョンにそつて考えられたものであります。50周年は、信仰の見直しと刷新がその理念であります。これはビジョンの精神にのつとつて見直しと刷新をするという事でした。記念誌の「扉を開いて」はこの精神を表わす象徴的な表題であったのです。50周年の祈りとして唱えて下さったのも、教会の門を開いて出て行き、門前に倒れているラザロの様な人々の苦しみを分



かち合うキリストの姿を心にあやかりたいと願つての事でした。ナイスの課題の取り組みと司牧評の方々がまとめ、答申して下さった前述の3つの優先課題はビジョン以後の見直しとして、今、かかえている問題について各ロック、諸活動、司祭、修道女達から集めたものから生まれたものであります。

さて、この50周年からの提案と3つの優先課題と今回ナイスから司教団に提出された答申を比較いたしますと、先の2つと「答申」とが全く一致する事に気づかれるでしょう。尚ナイスの答申と司教団の答えが「ともに喜びをもつて生きよう」というタイトルで日本カトリック司教団から出された小冊子がみなさんのもとにすでに届いていると思います。

同じ川 流れ出す恵

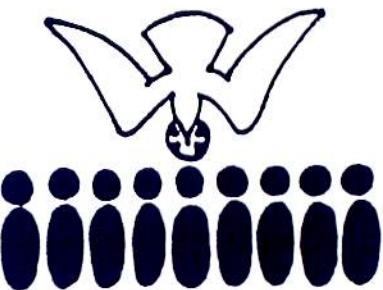
京都教区における具体化三つの優先課題の取組みから

このように申し上げましたら、もはや京都教区のナイスへの取り組み方針が明白になつてきていることに気づかれた事でしょう。司教団は答申の具体化は、全国レベル、教区レベル、小教区レベルと言ふように分けて取り組むと申しております。ですから大部分は各教区の独自性にまかされているわけであります。したがいまして、京都教区といったしましては、3つの優先課題を取りあげ、これに取り組む事を中心的な具体化への道と考えてよろしいわけであります。

50周年委員会からの提案については、宣教司牧評でもよく検討いただいたうえ、出来るものから取り組んでいこうと考えております。では3つの優先課題について少し述べておきたいと思います。

①適正配置

これは教会が福音宣教共同体となるために、場所、人事、活動を含



め根本的に見直そうと言う取り組みであります。

この点については'83年8月あたりからはつきりとではじめ(時報87号)それは以後何度も何度も取り上げられてまいりました。私も一昨年の四旬節教書の中でその問題を取り上げました。又、何故、適正配置かといふ問題も'85年3月号の時報にその問題が取り上げられています。10年の展望で教区の将来を見直した時、司祭の老齢化一つを取り上げましても、それは大変な問題である事に気づかされます。

この取り組みは司祭の間で適正配置検討委員会等を設け取り組もうといたしましたが、立案していただいても結局その必要性と緊急性が認識されず、なんとなくあいまいな形になってしましました。しかし今度こそこれに真剣に取り組まねばなりません。そのため私は、適正配置を考える委員会、人事を検討する委員会の様なものを設け、そこで具体的な立案をしていただけたらと思っております。尚これは教区の組織の根本的見直しも含めて考えねばならないでしょう。そのためには信徒、修道者、司祭、全教区民あげての真剣な取り組みが大切になります。さて、みなさんこの適正配置の取り組みは柱Ⅲの具体化である事にお気づきになると思います。

②青少年の問題

次に青少年の問題であります。これは柱Ⅱであることはみなさんす

ぐにお気付きになるでしょう。この基本的な考え方は、'85年度の私の四旬節教書をお読みいただければ幸いです。ナイスに青年達が燃えて下さった事について前述いたしました。又今年1月10日ナイス青年書記団の慰労をかねた集まりに約100名の京都・大阪の青年達が集つて下さり、青年の意識化とネットワーク作りが話し合われました。これを機会に青年達の教区を越えた輪が広がっていく喜ばしいきざしが見えております。はえ出したこの芽を摘みとらぬ様、みごとな枝をのばし実を結ぶ様、祈っております。

青年達との関わりについて2、3の事を加えておきます。

- 1、青年達の自発性を尊重し彼らに責任をまかせる勇気を持つ事。
- 2、彼らの行き過ぎや失敗に対しても寛大に接し、その発展と成長の芽を摘み取らぬ事。

3、教会的な一切の活動については青年は「共に」協力し合う良き同伴者であること。彼らの「ために」何かをするのではなく、青年と「共に」作るものであるべきです。青年はお客様でも従順な子羊でも、小間使いのようなものでもありません。

以上の事は青年達にとつてかなり厳しい事を要求される事になるでしょう。

③パイプのつまり

第3にパイプのつまりについて一言申し上げます。ナイスでは情報機関の充実と言う事が第1の柱ででてまいりました。交流伝達(コミュニケーション)は福音宣教にとつても基本的な事柄であります。ところで教区から送られてくるいろんな情報、報告がすみずみにまで伝わっていない、又すみずみからの吸い上げが不十分である事から多くの支障をきたしており、せっかくのすばらしい意見や、又いわば上からのお通知も十分知らされていない現状が單に福音宣教共同体作りだけ

でなく福音宣教にも大きな損失をしていると言うことがあります。それを開拓する方法を考えて行こうと言うものであります。

今その1つの試みとして、ナイスの代表者として参加した人達は次のようなすばらしい提案をして下さいました。ナイスへの意見をあれだけ多くの人々から出していただいたのだから、それを丁寧に返していく責任が自分達にあると自覚され、ここ数ヶ月を使って同参加者チームを組んで各小教区をまわりたいとの意向を明らかにして下さいました。これは大変なご苦労と犠牲が必要となります。

さて今後このような福音宣教に関わるような分かち合いはあらゆる教会行事に優先して取り組んでいくべきだとさえ思われます。

さあ出かけよう

以上がナイスを受けた私達教区民の取り組み方についての私の考えであります。

最後にもう1つの事を提案申し上げて終りたいと思います。少なくともこの一年ナイス又は、ビジョンの研究や見直しをしながら、その働きを通じて信徒養成を行い、又今後の信徒としての在り方、教会の在り方を見直していただきたいと思います。そのため行事の計画や実行にふりまわされがちだった役員会の方を考え直し、まず一年この事を役員を中心にして、見直す事をも意味します。信仰の見直し、教会行事の見直し、信仰とは、福音宣教とは、教会とは、信徒とはと言った根本的な事を再認識する時においていただきたいと思います。そしてそれは、司教も司祭も含めた信徒の養成の問題と関わってくるわけであります。昨年の新春座談会である神父様が、「1年間信者を作

らない年があつてもいいじゃない」と言われたのはこのへんの事を考えての様であります。

今回のナイスにあたつて京都教区の果した役割は非常に大きなものがありました。開催地として果した役割だけでなく、その理念とともにビジョンとそれ以後の取り組み、又その教会と社会に対する意識や考え方方が与えた影響は実に大であつたと自負しております。

私はそこで示されたみなさんの熱意にすばらしい明日を見る事ができる様な気がいたします。今迄ナイスの準備段階とナイスの間に大きな役割を果した私達でしたが、今後はその具体化において注目され期待されていると思えてなりません。

では出かけてまいりましょう。扉を開いてあのラザロの様な人々の中に生きていたる復活されたキリストに出会うために。四旬節に入ります。主と共に十字架を荷い、主と共に生きると言う事は、人々と苦しみを分かち合う事でもあります。そしてそれはまた、復活されたキリストに出会う事でもあります。



中のマークは
ギリシャ語の
I イエスス X キリストの組み合せ

新たに踏み出す光への道

京都聖嬰会



100周年記念

'87年11月17日

京都聖嬰会は開設100周年を祝つた。衣笠教会で記念式典に続いて田中司教、古屋司教及び3名の司祭による感謝のミサが捧げられ、その後聖嬰会のホールで祝賀会が催された。関係者たちは過去1世纪の間に受けた祝福と、多くの人を通して種々の形で与えられた数知れない恵みを神に感謝しつつ、集まつた人々と共にこの喜びを分かち合つた。この日、教会の信徒会館では、子供たちや職員の記念作品展も開かれた。

当施設の経営母体であるショフアイユの幼きイエズス修道会は、ブチジヤン司教の招きを受けて明治10年に来日して以来、時代と社会の必要に応えて「ゼンタンファンス」を次々と開設していくた。

シスターたちは養育の傍ら、地域交流のため、また養育費を得るために、手芸・裁縫・フランス語などの個人教授塾を開いたりし、子供たちの将来を考え、種々の面での養成に心を配つた。

今日も、41名の子供たちが、美しい自然に見守られ、20名の職員の心と手の中に、両親の温もりに代わるものを求めながら、光に向かって歩み続けている。



'86 京都・奈良
ウォーカソン

インド・タルミナドー州

ビード・クリフイス神父さまから

喜びのたより

今年の始めごろ、隣の村で家を建てるために240万円をお送り下さいましたね。おかげ様でウワリジヤ村で25軒の家を建て、10軒の家を修理しました。そこはいわゆるアンタッチャブルであつたところです。写真を撮つたので見て下さい。お金を下さった全ての皆さまによろしくお伝え下さい。



昨年のウォーカソンの募金、240万円を今年の初め送りました。カースト最下層の人々の住宅建設費となりました。みなさまの心が人々の生活に役立っています。

秘境の国ネパールから
第7伸 ナマステ

ノートルダム教育修道女会

今年のウォーカソンの募金は、このネパールの子供たちに届きました。

夜8時——真暗になつた道路の向う側から、パニ(水)、イナル(井戸)……とネパール語を読む声が聞え始めます。識字学級の始まりです。出席者のほとんどは、今迄学校に行つたことがなく、自分の名前さえ書けない10代後半～50代の女性です。朝から夕方迄、1日中仕事をした後で参加する夜8時～10時のクラスは、彼女達にとって大変きつく、途中いねもりをする人もいます。しかし、字が読めるようになる、計算が出来るようになるという希望をもつて、毎夜クラスに通つて来ます。

ノートルダム・バザールで行なわれていた第1回識字学級が今年3月に卒業を迎えた。丁度、イエズス会志願者Brノーベルトがバンディープールで働かれるところになつたので、彼に周辺の村々における識字学級の必要性を探つてもらいました。

パンディープールから片道3時間歩く。泊まる。

夜8時——真暗になつた道路の向う側から、パニ(水)、イナル(井戸)……とネパール語を読む声が聞え始めます。識字学級の始まりです。出席者のほとんどは、今迄学校に行つたことがなく、自分の名前さえ書けない10代後半～50代の女性です。朝から夕方迄、1日中仕事をした後で参加する夜8時～10時のクラスは、彼女達にとって大変きつく、途中いねもりをする人もいます。しかし、字が読めるようになる、計算が出来るようになるといふ希望をもつて、毎夜クラスに通つて来ます。

私達はメリノールの神父様が経営しているサービスセンター「ア



ダルト・エデュケーション・プログラム」に識字学級で教える教師を指導する人を送つてもらうよう依頼し、8月2日から2週間、トレーニング・コースを開くことになりました。

そして7月31日。Srミリアムと私(Srイヴァンジエラ)の会話：

「この頃、村長さんを見かけないけど、識字学級についての手紙を各村に出してられたかしら?」

「念の為、村役場に行つて確かめましょう」村役場に行つて驚いたことに、村長不在、副村長はそれについて知らないとのこと。

家がなく軒下に寝る。行く先の村に米が無いので自分が食べる米をかついで行く。などの苦労をしながら、どの村に識字学級が必要か調べてもらいました。

その結果、必要と思われる村々に村長から手紙を出してもらうことにしました。「村に教師としてのトレーニングを受ける者がいるか、教室として使う部屋があるか」を問い合わせ、その可能性がある村に識字学級を開くということにしました。

約220名が勉強しています。ダサインの祭りの後出席しなくなつた人もいますが、3ヶ月経つた今

も熱心に通つている人が沢山います。

先生の給料とランプ、ランプのオイル、チヨーク等クラスに必要なものは、私達が支給しています。ある村は、村全体が貧しく、出席者の誰も1ルピー(約7円)のノート・エンピツさえ買えません。その村だけには、ノート・エンピツも支給しました。クラスにする部屋が小さく、外で授業をしているところもあります。授業は土曜日を除く毎夜8時から10時まで、先生は毎週金曜日と土曜日の昼2時間トレーニングを受ける為パンディープールにやつて来ます。指導者はサービスセンターのロムさん。彼は7ヶ月パンディープールに住み、トレーニングをすると同時に村の識字学級を廻つて指導します。

皆さんからの祈りによる支え、経済的援助により、このような活動が出来ることを感謝しています。

終了した後、識字学級が開かれ、毎夜ネパール語を読む声が聞えることになつたのです。

- ネパール
- 300万円
- バングラディシ
- 469万9552円

届けました。皆様ご協力ありがとうございました。

お知らせ

教区スケジュール

- 2月
1日 司祭評議会
7日 日本26聖人記念ミサ
(フランシスコの家)

- 3月
14日 四日市堅信式
17日 灰の水曜日
19日 SVP理事会

- 4月
7日 司祭評議会
18日 SVP理事会
19日 信徒使徒職養成コース
同窓会(野外礼拝センター)

申し込み

〒455名古屋市港区蟹田1833

聖心会名古屋修道院 Sr交野君子

☎ 052(302)4385

▼一般信徒の方の為に、8日間で限らず2日でも3日でもご都合のよい日を申し込まれる事も可能です。

▼召命默想会にご参加下さい

集まれ!! 聖書を読みたい人
生き生きと信仰を生きたい人
やる気熱意のある人、若者も大歓迎。
どなたでも大歓迎。



「参加できてよかったです! 言葉が味わえるようになつた」「友だちができた」等々: 大好評です。

毎週1回(木曜日・金曜日)6ヶ月(全20回)。聖書を学びながら、楽しく研修します。講師は京都南部の神父様方です。さあ、この機会逃さず、聖書と親しくなりましょう。▼場所河原町カトリック会館▼費用5,000円(4,000円以下)▼定員各18名▼主催聖書使徒職委員会▼申し込みなど

- ▼春の「個人指導の默想会」案内
日時 3月23日(水)PM6時~4月1日(金)朝食まで
場所 裕野聖心会黙想の家
持用品 聖書、筆記用具
費用 45,000円
ヘルパー ウォード師(御受難会)
牧野師(イエスの聖心布教会)
Sr増田(聖心会)
メ切日 3月15日
申し込み

- ▼参加希望者は当日集合場所に来て下さい。
主催 棚みその会 ☎ 075(691)3290

土の中で眠っていた虫さんたちもおきだし、ようやく春らしさを感じるようになつてきました。時報も昨年後半から報告を中心掲載してきましたが、4月からは皆様の取り組みのヒントとなるような記事も載せていきたいと思います。(い)

▼広い視野を育ててみませんか

- 日時 3月21日(祝)AM9時集合
行き先 大阪人権歴史資料館(環状線芦原駅下車)
集合場所 高島屋正面入口

▼春の「個人指導の默想会」案内

開心



(河原町教会)

- 申込〆切 4月5日までに☎かか
ガキで右記修道院へ
指導 ルカ師(フランシスコの家)
対象 青年女性信徒(高3以上)
会費 3,000円

5月から10月受講生、大募集!!

聖書が好きになる講座

ーあなたも宣教者になろうー

合せ 教会主任司祭 又は 教理センター Sr福島まで
☎ 075(462)0754